

教職大学院
教育実践専門職高度化専攻

教科領域指導プログラム

書道教育サブプログラム

「書道教育サブプログラム」の位置づけ

教育実践専門職高度化専攻(教職大学院)

高度専門職業人としてのスクールリーダーを養成するため、学校教育についての高い実践力・専門的知見を獲得し、教科等の専門的な指導力、また、特別支援教育並びに学校教育の課題への高い対応力を身につける

学校組織マネジメント

総合教育実践

教科領域指導

教科や領域の基礎となる諸科学や本質について専門的な理解を深め、教育内容と指導法を有機的にむすびつけて授業等を効果的に展開できる高い実践的指導力を身につけることをねらいとする。
教科、領域ごとに14のサブプログラムを開設。

書道教育サブプログラム

高等学校の芸術科書道(小・中学校国語科書写を含む)について教科教育学と教科内容学を有機的に関連させた実践的研究を行い、高度な資質・能力を身に付けた教員の養成。

特別支援教育高度化

教育プロジェクト

書道教育サブプログラムの概要

高等学校の芸術科書道(小・中学校国語科書写を含む)における指導計画の作成、教材研究の方法、授業実践、学習の実現状況の把握、授業改善の方法等について、教科教育学と教科内容学を有機的に関連させた実践的研究を行う。

これらの学修を通して、高度な資質・能力を身に付け、各学校において先導的な役割を果たすことができる教員養成を行う。

書道教育サブプログラムのカリキュラム

専攻科目 (10単位 スクールリーダー養成の
共通基盤)

プログラム科目

専攻科目の内容を発展させ、専門的な強みを実践に結びつけて展開する

書写・書道の授業の
指導と評価

書道科の実践演習Ⅰ

書道科の実践演習Ⅱ

必修科目6単位

高度選択科目

専攻科目とプログラム科目の内容を発展させ、学生一人ひとりの専門的な強みを課題意識に応じて展開

書道科の内容構成開発と実践

書写書道教育における教材づくり

書道科の高度研究開発法

上記or他のプログラム等から10単位以上

課題研究

学生自らが学校現場等から問題を見出し、書写書道教育における課題を立ち上げ、その改善や解決に取り組み、さらに教育実践研究を独力で進める能力を身につける。

4単位

教職専門実習

学校における教育活動や実務全般について総合的に体験し、省察する。
各自の実践課題を設定して、書写・書道の授業研究を行い、実践力を高め、研究に還元する。

2019. 2020は附属小金井中学校、附属高等学校で実施

1, 2年時 合計10単位

合計46単位

書道教育サブプログラムの授業の概要①

書写・書道の授業の指導と評価

学習指導要領に示された芸術科書道教育(国語科書写を含む)の内容とその指導法、評価法への理解を図り、授業実践のための基礎的な資質・能力を身に付ける。

書道科の実践演習Ⅰ

自己の教育実習の振り返りを通して自己課題の明確化を図り、課題研究のテーマ設定へとつなげることをねらいとしている。実践事例を参考として、内容学の知見を踏まえた実践研究を展開する。

書道科の実践演習Ⅱ

芸術科書道の他者の授業づくりの観察・分析を通して、多様な教育現場に応じた授業計画、指導内容、指導法を検討する。

書道教育サブプログラムの授業の概要②

書道科の内容構成開発と実践

人文科学の観点から、教育実践上の課題として意味づけ、整理・再構成することを目指す。歴史的文化的理解を深めながら書技法を習得し、教育目標に照らした再構築を行う。

書写書道教育における教材づくり

内容学の新しい知見を踏まえつつ、ICTの効果的な活用を視野にいれ、児童・生徒が思考・判断し主体的・協働的に学習が進められるような教材の作成とその活用に関する実践的な研究を行う。

書道科の高度研究開発法

授業の内容は、以下の五つの視点から考究する。①書写書道教育学に関する実践的研究の研究手法の検討と課題に関する授業、②研究紀要に掲載された実践事例を検討する授業、③鑑賞について、美術教育における実践を援用した研究開発事例の検討、④現代の芸術現象の視点から多角的に書の鑑賞について考究する授業、⑤芸術科書道における主題の検討

書道教育サブプログラム 修了生から(本学書道専攻卒業生)

①なぜ教職大学院を目指したか

私は、学部4年間を通して、書写書道教育についての専門性や教員としての資質・能力を育んできた。そのような中で、学校現場や書道教育において様々な教育的課題があることが分かった。よって、教職大学院に進学し、**様々な教育的課題にも対応できる高度な実践的指導力、応用力を身につけること、そして研究成果を生かし、高等学校芸術科書道の教師として書道教育の更なる発展、生徒の育成に貢献したいと思い、目指しました。**

②どんな勉強しているか

教員免許状を習得した上での実習なので、学部の実習では経験できないような職員会議や保護者会等にも参加し、より学校現場の実態について勉強しています。

③どんな研究をしているか

私は「**一斉教授法の導入における書道教育の変容と功罪**」というテーマで研究しています。現在学校では一般に一斉授業が行われていると思います。書道の授業においてもその一斉授業がいつ、どのような経緯で行われ始めたのか、一斉授業の形態が導入されることでどのようなよさや課題があるのか等に注目して研究しています。

④一言

教職大学院は理論と実践を往還させながら教員として不可欠な指導力や実践力、応用力を身に付けることができます。一緒に東京学芸大学教職大学院書道教育サブプログラムで学べることを楽しみにしています。待っています。

書道教育サブプログラム 修了生から(芸術科書道の現職教員)

私は、芸術科書道の教員として採用後、4年間地元の高等学校に勤めました。大学時代に、学んだことを常に意識しながら、日々実践を行っていました。しかしその一方、経験年数が増し、仕事に慣れてくる中で、徐々に全てを経験のみで語り行動してしまっていることに、もどかしさを感じていました。そんな中、大学院へ進学するための休業制度があることを知り、教員として必要な知識等をもう一度勉強し、学び直し、更に深めたいと思い、進学しました。教職大学院ということもあり、専門教科に関わる授業はもちろんですが、それと同じもしくはそれ以上に、教育に広く関わる幅広い授業があり、他専攻に所属する院生の方々とも交流しながら、学びを深めています。その中で、私が研究のテーマとしているのは、近年学習指導要領において言われている、「[思考力・判断力・表現力等](#)」を意識した具体的な授業プログラムの開発を目指して、研究をしています。この研究が、大学院在学中に留まらず、来年度以降も、更に継続し発展させ、研究を進めていく大切な基礎となると思い取り組んでいます。

教員になった後は、時間をかけてじっくりと学ぶ時間はなかなかありませんでした。しかし、今こうして貴重な2年間で再び学生として過ごすことができ、とても充実した毎日を過ごしています。現職の方であっても、また新たな気付きや発見が日々あることと思います。ぜひ、大学院への進学をご検討下さい。

書道教育サブプログラム 2年生から(本学書道専攻の卒業生)

私は学部4年間を通じて、書写・書道教育について学んできました。一方で、学部での教育実習では、学校現場を取り巻く様々な教育的な課題があること、より一層高度な実践的指導力、応用力を身に付ける必要性を感じました。

そのような中、中高国語科で採用いただいた自治体では、大学院進学のための採用猶予の制度があることを知りました。学部時代の課題意識から、教科の専門性のみならず、多様な教育現場に応じた実践的な指導力を身に付けたいと思い教職大学院の進学を決めました。

教職専門実習では、教員免許を取得した上での実習となるので、職員会議や保護者会、学校行事等にも関わります。学校生活全般に関わることができるため、学校現場の実態をみとることができます。

私の研究テーマは「文字文化」についてです。「文字文化」というものはどのようなものなのか、またそれをを用いてどのような授業を開発し、生徒にどのような力を身につけさせるのか、どのようにみとることができるのかを研究しています。その際に、理論として研究をすすめるだけではなく、教職専門実習という実践の場があるというのが教職大学院のよさだと感じています。

大学院修了後は、この研究が手書きすることの素晴らしさや書文化を伝えるための基礎になると考え、現場での研究を継続したいと思い取り組んでいます。

教職大学院に進学したからこそ得ることのできた学びや気づき、現職教員の方々とのつながりがあります。ぜひ、書道教育サブプログラムへの進学をご検討ください。

教科領域指導プログラム

書道教育サブプログラム

ありがとうございました。